

【選手体験手記】

1. 職種名 建具

2. 名前 古見秀嗣

3. 体験手記

(1) 大会前の準備

今大会の課題発表まで前回大会の課題を練習しました。

国際大会の課題は全国大会より難易度も上がり、3D課題も追加されるので初めは、慣れていない3D課題を集中して訓練しました。

また、電動工具を多く利用する作業方法に変わったので、より精度と作業スピードを意識して取り組みました。

大会会場に工具を約2ヶ月前に輸送するため、その後の訓練が満足にすることが出来ませんでした。

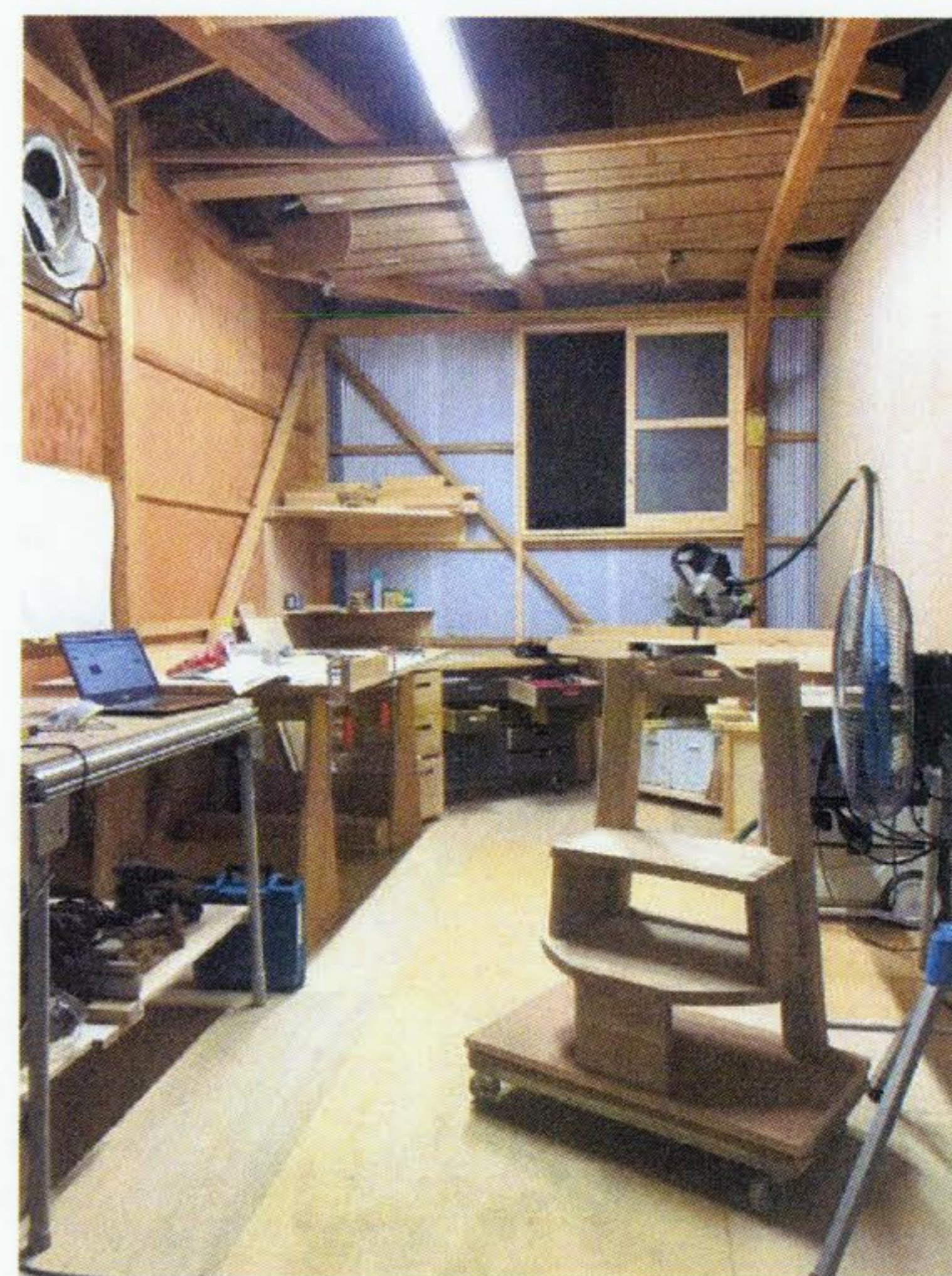


写真1 訓練場（会社にて）

(2) 競技



写真2 大会風景

当日の30%変更への対応力、また、会場に設置されている機械を思うように使いこなせなかったことがマイナスでした。

特に30%変更への対応は訓練では十分にすることが出来なかったため、本番ではとても悩みつまづきました。

その中で、制限時間内に組み立てることを目標に、スピードを1番に意識することに切り替えることが出来、2つの課題ともに時間内に完成することが出来ました。

(3) 交流

各国の選手達は自分が想像していたよりも上をいく競技スピードと高い精度がある作業をしていて、とても強い刺激を受けました。



写真3 今大会の課題

加工方法や道具、治具など新たに学ぶことが出来ました。英語力をもっと身につけると、よりコミュニケーションが取れたのではないかと思います。

4. 後輩へのメッセージ、アドバイスなど

国際大会は全国大会と比べ、課題の難易度が上がり、全体のボリュームも増します。また、作業・加工方法・ルールが異なってきます。さらに大会では、最初から最後まで訓練通りにうまくいくことは100%ないということを入念に入れて、変更・異常への対応力の訓練を重視し、必ず身につけたほうが良いと思います。

初めは頭を抱えることもあるかもしれませんが、会社の方々、指導者の方のアドバイスやサポートをいただき、プラスな気持ちで意欲的に課題に臨むことで良い方向に楽しんで訓練を行えるのではと思います。